

質疑応答 (要旨)

ご理解いただきやすいように表現の変更や加筆・修正を行っている箇所があります。

Q: 第 1 四半期の状況について、サービス IT が好調だった理由として決済関連ビジネスの拡大を挙げられていますが、その内容はどのようなものでしょうか。また、業種別では銀行が厳しいとのことでしたが、その理由と第 2 四半期以降の見通しについて教えてください。

A: まず、決済関連ビジネスの拡大は、従前からご説明してきたクレジット SaaS に関わる開発が引き続き堅調に推移していること等によるものです。それから、銀行については、いわゆる常駐ビジネスにおいて、緊急事態宣言もあって非常に厳しい勤務環境の制約を受けたことから、第 1 四半期の業務に大きな影響が生じました。しかしながら、その後は勤務環境の制約も緩和されてきていますので、回復してくると思っています。また、常駐ビジネス以外においても第 1 四半期には営業面等で影響を受けましたが、こちらも第 2 四半期以降は大丈夫であろうと考えています。

Q: 今回発表された上期計画からすると、第 2 四半期は 5%減収・11%営業減益という計算になります。この背景についてもう少しご説明いただけますか。第 1 四半期の受注高は想定より弱かったように感じていますが、今回発表された上期計画は期初の想定通りなののでしょうか。また、通期計画を変更されていないので、下期は 1%増収・3%増益ということになりますが、どういう想定によるものなのでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大の今後の状況によっては変わることもあるのでしょうか。

A: 上期計画については概ね期初想定通りと考えています。新型コロナウイルス感染症拡大による業績影響は第 1 四半期にはあまり出ない一方、第 2 四半期の業績面は第 1 四半期の厳しい受注状況を受けて特に厳しくなるであろうと想定していることは、すでにご説明してきたとおりです。当期の計画は、第 3 四半期から事業環境が正常化するという仮定に基づいて算出したものであり、その中で下期はプラス成長に戻るとの想定に変わりはありません。但し、新型コロナウイルス感染症拡大の収束状況等が現在の想定と異なることになった場合には、計画を変更する可能性があります。それもすでにご案内しているとおります。

Q: 当期の販管費計画は 630 億円で前期比 20 億円増となっていますが、第 1 四半期だけで約 11 億円増加しています。第 2 四半期以降はどういう見込みでしょうか。販管費の増加要因として挙げている組織マネジメント強化の内容と合わせて教えてください。

A: 当期の販管費は、組織マネジメント強化に伴う増加のほか、処遇改善を含めて今後に向けて必要と考える費用は止めることなく使っていく一方、第 2 四半期からの本社系高度化プロジェクトによるコスト削減効果、その他経費の執行抑制等の結果、通期で前期比 20 億円増加する計画となっています。各四半期の増加額は必ずしも同程度というわけではありません。組織マネジメント強化の内容ですが、主に組織長の人件費について、その職責に応じて役割を明確にしたことで販管費に計上することにしたものです。エンジニアの非稼働に伴うものではありません。

Q: BPO について、上期が増収増益なのに下期が減収減益の計画となっているのはなぜでしょうか。

A: BPO をはじめ、計画については事業の状況に合わせて適宜見直しを検討していきたいと考えています。なお、BPO で第 1 四半期にあった給付金対応は、既存取引がある地方自治体から受けたもので、全体から見ればそれほど大きな規模ではありませんし、特需的なものなので今後も続くとは考えていません。

Q: 第 1 四半期のサービス IT は増収減益となっており、この要因の一つとして、新規連結子会社影響等を挙げられていました。影響額は約 2 億円かと思いますが、Sequent 社の損失分がほとんどと考えてよいのでしょうか。また、ERP の減少は通期 7%減に対して想定通りということでしょうか確認させて下さい。

A: 第 1 四半期の新規連結子会社影響等 2 億円のほとんどは Sequent 社の損失分です。通期の影響見込みに対して想定通りという状況です。ERP は、第 1 四半期では大型案件の反動減もあって 1 桁億円の後半くらいの減少でしたが、これも概ね想定通りです。第 2 四半期以降はしっかりと受注を積み上げ、下期に回復できるように努めてまいります。

Q: 第 1 四半期の受注高について、全体では想定線だったということですが、産業 IT は想定よりも厳しかったのではないかと思います。どういう状況なのかももう少し教えてください。

A： 第1四半期の産業ITの受注状況はかなり厳しい状況になりましたが、もともと新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受け、最も厳しいセグメントになるとの見方をしていましたので、厳しいながら概ね想定通りだったと考えています。中堅中小企業をはじめとして幅広い業種でIT投資抑制の動きを受けましたが、製造業系の根幹先のお客様については、従来からの運用・保守開発分が大きいいため、今のところは概ね堅調に推移しています。

以 上